

令和3年司法試験合格体験記

2020年度修了（未修コース）武田 諒

15 期末修の武田諒です。これまで学習の指導面・環境面で支えて下さった方々に感謝申し上げます。加えて、これからもよろしくお願い致します。

私は司法試験対策として、自分のできていない点を分析し、それを復習していました。具体的には、時間を図り実際に答案を書き、出題趣旨・採点実感・再現答案・先生方の解説を参考の上、正解筋を外しているかを確認し、どうしてそうなったのかを把握します。復習の方法としては、書き方が分からなかった場合には、再現答案、他の方の答案や先生の教えを参考に書き方を押さえておきます。考え方が間違っていた場合には、どのように考えればよいかを論証集等で確認していました（余裕があれば間違えた部分の周辺知識も確認）。また、論文式試験のリスクマネジメントとして、皆が書いているところは自分も書かなければならないというのが原則であり、最低でも採点実感でいう「一応の水準」に乗せることを目標としていました。

司法試験の答案作成には時間がかかりますが、書くことにより分からないことが明白になったり、日本語能力を鍛えられたりします。私は、かなり日本語が苦手でしたが、実際に答案を書くことにより確実に向上しました。また、他の方に自分の答案を読んでもらい、自分が伝えようとしたことが伝わっているかを確認していました。伝えようとしたことが全く違う捉え方をされれば、かなり勿体ないですからね。

上述したことは、短答式試験にも同様で、間違えた点については、徹底的に原因を追究していました。似ているようで前提事実が少し違う問題をセットにして、何が違っているのかを確認する。短答式試験の場合は、前に似たような問題あったなという曖昧な感覚で解いたりするので、理論的に説明できるくらいにすることが大事です。短答式試験は論文式試験にも通ずるので、短答式試験の問題を、論文ではどういう風を書くのかも想定することもおススメです。

岡山大学法務研究科では、司法試験対策ゼミが充実しており、各先生方・修了生の方が熱意を持って対応してくれるので、この機会を活かせば確実にスキルアップをすることができます。司法試験に近づくにつれ、不安も募りますが、諦めずに勉強を継続することが大事です。